



日本最大級の国産農産物展示商談会が開催 都内で様々な群馬県産青果物や加工品をPR!

第13回 アグリフードEXPO東京2018

- 期日：8月22日(水)～23日(木)
- 場所：東京ビックサイト 東4ホール
- 主催：(株)日本政策金融公庫
- 内容：国産農産物・加工品の展示商談会

■全国から678社・団体が出展し、12,000名以上が来場!

国産の農産物や加工品の展示商談会「第13回 アグリフードEXPO東京2018」が東京ビックサイトで開催されました。出展対象者は、国内で農業を営む方・国産農産物を主原料とする食品を主として扱う国内食品製造者・6次化支援技術を提供する事業者で、全国から678社・団体の出展があり、12,000名を越える来場者がありました。

群馬県からは、群馬県こんにやく海外戦略研究会（県を含めて7社・団体）、高崎市・高崎そだち（6社・団体）、赤城の恵ブランド推進協議会（5社・団体）、上野村（JA上野村）、みなかみ町（みなかみ農村公園公社）、伊勢崎市（「農&食」戦略会議）など合計30社・団体の出展があり、全国的な販路拡大を目指して商品のこだわりや特徴等を熱心にPRしました。

■群馬県から30社・団体が出展!

群馬県こんにやく海外戦略研究会のブースでは県の事務局担当者が「こんにやくいもの生産量は群馬県が日本全国の約9割を占めており、群馬県のような企業が多種多様なこんにやく製品を製造しています。」とPRしました。昨年に引き続き「タピオカ風こんにやく入りミルクティ」の試食提供が行われ、来場者からは「タピオカより食感が良くヘルシーだ」と大変好評でした。同ブースではこの他に、(株)北毛久呂保がこんにやく焼きそば等、(株)市川食品が野菜ペーストで色鮮やかに色付けた粒こんにやくやパスタこんにやく等の様々な展示や試食も行われ、国内はもとより、海外のバイヤーとも盛んに商談を行っていました。

また、高崎そだちブースからはマルマツ農園（熟していない群馬県産梅100%から作った「梅シロップ」等）等6社、赤城の恵ブースからは(株)まるだい（前橋市産の大粒大豆を使用した「まじめな大粒納豆」等）等5社の他、伊勢崎市「農&食」戦略会議から生食専用なす「宵葉月」、(株)プレマ（前橋市）から群馬県産小麦とプレマ有機小松菜を使用した生うどん等、石井メイドオリジナル（昭和村）から生芋100%でアク抜き不要の「生芋こんにやく」等の群馬県産の様々なこだわり農産物や加工品を出展し、盛んに商談が行われました。



群馬県こんにやく海外戦略研究会ブース



(株)北毛久呂保、雪国アグリ(株)ブース



群馬県からの主な出展（左からマルマツ農園、(株)まるだい、伊勢崎市「農&食」戦略会議、(株)プレマ）